

長期ビジョン

[素案]

平成18年1月

横浜市

はじめに

長期ビジョンは、これからの概ね20年間(2025年頃)を展望して、目指すべき横浜の都市像の実現に向け、横浜を支えるすべての人々が課題を共有しながら取り組んでいくための基本的な指針となるものです。

少子高齢社会の進行や人口減少社会の到来とともに、社会経済のグローバル化が市民生活の隅々まで広がるなど、社会の大きな転換期を迎えている現在において、これからの横浜が目指すべき姿を描くため、横浜国際港都建設審議会において活発な議論がなされました。

この度、横浜市は、横浜国際港都建設審議会からの「答申」を受け、その内容を十分に踏まえた長期ビジョンの「素案」を策定しました。

これまでの議論の集大成である「素案」を、より充実したものとしていくためには、多くの皆さんに、ここに描かれている横浜の将来の姿について考えていただくことが重要です。

長期ビジョンは、横浜を支えるすべての人々が共に創りあげていく横浜の未来構想です。皆さんからの多くの御意見、御提案をお待ちしています。

平成 18 年 1 月

横浜市長 中田 宏

目次

	ページ
1 横浜の都市像	1
(1) 市民力 ～市民の活力と知恵の結集～	
(2) 創造力 ～地域の魅力と創造性の発揮～	
2 都市像を支える5つの柱	2
(1) 世界の知が集まる交流拠点都市	
(2) 新たな活躍の場を開拓する活力創造都市	
(3) 多様な働き方や暮らしができる生活快適都市	
(4) 市民の知恵がつくる環境行動都市	
(5) いつまでも安心して暮らせる安全安心都市	
3 実現の方向性と取り組み	4
(1) 多様な文化を持つ人々と共に生きよう	
(2) 充実した学びにより豊かな人生をおくろう	
(3) 子どもを温かく見守りのびのびと育てよう	
(4) 横浜ならではの魅力を創造し都市の活力を高めよう	
(5) 活発な情報交流により新たな可能性を創造していこう	
(6) 個性を活かして働ける社会をつくろう	
(7) 暮らしやすい快適なまちづくりをしよう	
(8) 地球にやさしい都市環境を未来へ引き継ごう	
(9) 住み続けたいと感じられる魅力をつくろう	
(10) ゆとりをもって安心して暮らそう	
4 実現のための基本姿勢	9
(1) 市民力の発揮 ～新しい公共の創造～	
ア 市民主体の取り組み	
イ 協働による取り組み	
(2) 行政の役割 ～自律と分権の地方自治を目指して～	
資料編	
横浜市の将来人口推計について	資料編－1
長期ビジョンの策定プロセス	資料編－3

1 横浜の都市像

横浜は、平和や人権の尊重を基調として、世界との窓口として歴史的に果たしてきた役割を常に認識しながら、知恵と活力を最大限発揮し、市民がいきいきと暮らせる魅力あふれる都市でありつづけます。

また、年齢や性別、障害の有無や国籍にとらわれることなく、多様な個性を尊重し、市民自らが多様な力を地域社会で発揮します。

市民の意識と行動が、これからの横浜を形づくりします。新しい「横浜らしさ」を生み出し世界に発信することで、横浜は常に新たな魅力と活力を創造しつづけます。

都市像

市民力と創造力により新しい「横浜らしさ」を生み出す都市

(1) 市民力 ～市民の活力と知恵の結集～

横浜の特徴であり最大の活力の源は、多様で豊富な人材と、活発な市民活動です。市民が生活を営んでいくうえで、地域において様々な課題が発生しますが、「横浜らしさ」である豊かな市民の力を最大限発揮し、解決に取り組みます。

また、世代間で互いに助け合い、連携しながら、柔軟性と新しい発想を生み出す地域づくりをすすめ、安全と安心のなかで充実した暮らしをおくることができるまちをつくりあげます。

そのために、市民一人ひとりが広い視野と責任感を持って自発的に地域や社会活動に参画し、知恵と行動を結集することにより、いきいきと暮らせる都市の魅力と活力をつくりあげていきます。

(2) 創造力 ～地域の魅力と創造性の発揮～

横浜の特徴であり最大の魅力は、豊かな水・緑と歴史的建造物や先進的な都市景観に加え、多様な文化や人々をわけ隔てなく迎え、受け入れてきた開放性と、常に新しい技術や文化に目を向け積極的に取り入れていく進取の気風です。

社会経済のグローバル化や情報化がすすみ、ますます世界が身近になるなかで、世界のなかの横浜としての役割を担っていくために、横浜ならではの魅力「横浜らしさ」を、誇りを持って世界に発信します。

国内外から人や企業、国際機関などが集まり、それぞれの知恵や文化の融合により新たな魅力を創造し、世界で活躍する人を育む、躍動する創造的都市をつくりあげていきます。

2 都市像を支える5つの柱



世界の知が集まる交流拠点都市

横浜は、開港期以来、国内外から多くの意欲と才能あふれる人々が集まり、常に時代を先取りしながら、国際港都として新たな魅力と活力を生み出してきました。

知的財産や活動の重要性が高まるなかで、国内外の知識や人が集まる場を豊富に提供するとともに、次代を担う子どもたちを社会で温かく見守り、充実した教育環境のもと、世界で活躍する人々を育みます。

国際機関や研究活動の場が集まる横浜で、私たちと、世界から集まる多様な文化や技術を持つ人々が交流し、互いに切磋琢磨することにより、新しい文化芸術や先進的技術を生み出し、特色ある都市の創造性を発信することで、横浜は世界の知識と知恵の拠点を目指します。



新たな活躍の場を開拓する活力創造都市

横浜は、その立地条件や港の存在をもとに、時代に応じた産業が生まれ、集積しながら発展し、都市の活力を生み出してきました。

社会経済のグローバル化や情報化がすすみ、都市間競争が激しくなるなかで、横浜から新たなビジネスチャンスと企業活動を生み出すことにより、国内外から企業の集積をすすめ、多くの人に活躍の場を提供していきます。

高度な技術や人の集積による都市の創造力と、新しい就業の場の創出により、横浜は人も企業も躍動する活力あふれる都市を目指します。



多様な働き方や暮らしができる生活快適都市

横浜は、東京の一極集中に伴い急速に住宅地が拡大するなかで、産業の集積を図るとともに、魅力的な都心部を形成することにより、多くの人々が訪れ、生活・就業する大都市となりました。

働き方が多様化し、年齢や性別による固定的な役割が変化するなかで、個人の価値観に応じて、働きながら地域や家庭で心豊かな生活をおくることができる、高齢者や女性もいきいき暮らせるライフスタイルを実現していきます。

また、自然環境や都市景観など地域の特性に応じたまちづくりを市民自らが愛着を持って行うことにより、横浜は豊かな生活環境のある快適で暮らしやすい都市を目指します。

4

市民の知恵がつくる環境行動都市

私たちの日々の生活や活動は、地球環境に影響を及ぼしており、環境に対する配慮を常に意識し、行動することが求められています。

地球規模での環境問題がより深刻化するなかで、身近なところで積極的に環境を守り、質の高い環境を創造していく行動を積み重ね、世界の一員としての役割を果たします。

世界から環境に関する情報や技術、人が集まり、その交流のなかから新たな環境技術や取り組みを生み出すとともに、人と自然が共生し、環境と経済の好循環を実現する都市の姿を世界に発信することで、横浜は環境の港を目指します。

5

いつまでも安心して暮らせる安全安心都市

私たちが安心して暮らしていくためには、災害や犯罪、病気などの不安に備えることが必要です。

少子高齢社会の進行や人口の減少により、地域コミュニティが変化しても、そこで生活する人々が、人と人とのつながりを大切にし、互いに支え合うことができれば、暮らしの安全と安心が生まれます。

横浜は、一人ひとりの知恵と行動力を結集しつつ、セーフティネットのゆきとどいた社会の仕組みをつくりあげていくことにより、いつまでも心豊かに暮らせる都市を目指します。

3 実現の方向性と取り組み

(1) 多様な文化を持つ人々と共に生きよう

横浜が、世界との窓口としての役割を果たしていくためには、世界で活躍する人々を豊富に輩出するとともに、多様な文化を持つ人々が集い、いきいきと暮らすことができる都市づくりが重要です。

- 日本や横浜の歴史と文化を理解し、世界の人々とコミュニケーションがとれる国際性豊かな人を育てましょう。
- 国籍に関わらず、人と人とのつながりを大切にし、多様な文化が共生するまちを目指しましょう。
- 横浜の技術力や市民の多様な力を活かし、アジアとの交流や貢献を重点としつつ世界の都市との連携を活発に展開し、アジアと世界を結ぶ架け橋の役割を担っていきましょう。

(2) 充実した学びにより豊かな人生をおくろう

一人ひとりが将来を展望し、充実した暮らしをおくるとともに、国内外で活躍する人々を育てていくためには、子どもから高齢者まで生涯にわたる多様な学びの機会を充実させることが重要です。

- 多様な個性やニーズに応じた充実した学びと、再挑戦できる教育システムが整った、教育が充実したまちを目指しましょう。
- 学校と家庭や地域が連携し、共に人を育てるとともに、青少年の自立を支援するまちを目指しましょう。
- 地域コミュニティを支える人々が育ち、地域の課題解決に向けて技術や能力を活かせるまちを目指しましょう。

(3) 子どもを温かく見守りのびのびと育てよう

次代を担う子どもたちの健全な成長は、未来への希望あふれる都市づくりの根本です。ライフスタイルが多様化するなかで、誰もが暮らしやすく、子どもたちがのびのび育つまちを実現していくためには、子どもが成長する喜びを社会全体で共有し、見守っていくことが重要です。

- 社会全体で子育てを支援することにより、子育てに関する様々な不安や負担を解消して、子どもとともに夢を共有できるゆとりある生活を実現しましょう。
- 子育てしやすい住環境や、子どもたちがのびのびと遊び、学べる安全な地域と親子の居場所づくり、医療の充実など、子育てバリアフリーが徹底された生活環境の整ったまちを目指しましょう。
- 青少年が積極的に地域社会へ参画するとともに、世代間で互いに助け合い連携して子育てを支援する地域コミュニティを実現しましょう。

(4) 横浜ならではの魅力を創造し都市の活力を高めよう

横浜の活力を高めていくためには、活発な文化芸術活動や国際機関などの集積により、多様な人が集まり、交流することで、横浜ならではの魅力と可能性を創造することが重要です。

- 横浜の立地条件を活かし、空港、港、道路、鉄道が一体的に機能するまちをつくり、活力ある産業の集積や新たな産業の創出に積極的に挑戦し、活力と競争力のあるまちを目指しましょう。
- 横浜の活力の源である港の魅力を高めるために、アジアや世界に貢献する物流機能だけではなく、海に親しめる憩いの機能も高めていきましょう。
- 環境に配慮した事業活動や技術開発、消費が活発に行われるまちを目指しましょう。
- 横浜の食を支える農業と都市生活を共存させ、大きな消費地を背景とした地産地消を積極的にすすめるとともに、安全で新鮮な農産物を生み出す都市農業が活発に行われるまちを目指しましょう。

(5) 活発な情報交流により新たな可能性を創造していこう

情報通信技術の飛躍的な進歩により、時間と距離を超えて自由に情報を発信し、受信することが可能となってきています。すべての人々が、自由に、かつ、容易に情報通信技術を利用できる社会を築き、情報交流を活発に行うことにより、新たな可能性を創造していくことが重要です。

- 横浜の知恵や創造力を活かした先駆的な情報を創出し、世界へ発信していきましょう。
- 世界の多様な人々との情報交流を活発に行い、新たな発想や技術、ビジネスチャンスなどの創出につなげていきましょう。
- 情報通信技術を積極的に活用し、地域社会における合意形成や防災・防犯など、様々な課題の解決や利便性、効率性の向上につなげていきましょう。
- 個人情報 を適正に管理するとともに、情報を活用するための知識と技術、マナーを身につけ、活発な情報交流を行いましょ う。

(6) 個性を活かして働ける社会をつくろう

将来への希望を持ちながらいきいきと暮らしていくためには、「働く」ことの大切さや意義を誰もがしっかりと認識し、働く意欲や努力が報われる社会を実現していくことが重要です。

- 年齢や性別、障害の有無や国籍などにとらわれずに、個性や能力に応じた多様な職業や働き方を選択できるまちを目指しましょう。
- 子育てや介護など、生活環境が変わっても、働き続ける選択もできる柔軟な労働環境をつくりましょう。
- 知識や技能を修得し、向上する機会が豊富にあるなかで、一人ひとりの能力を活かして挑戦でき、また、挑戦する人を応援する気風にあふれるまちを目指しましょう。

(7) 暮らしやすい快適なまちづくりをしよう

高齢社会や人口減少社会のなかで、誰もが快適に暮らしていくためには、ライフスタイルや地域の特性に応じた住環境のなかで生活し、身近な地域で様々な活動ができることが重要です。

- 多様化するライフスタイルや、地域の特性に応じた質の高い住環境が整ったまちを目指しましょう。
- 誰もが働きやすい就業の場と居住の場のほか、楽しみ、学び、憩いの場などが駅を中心に近接するコンパクトなまちを目指しましょう。
- 歴史的建造物や水・緑・文化などの地域の特性を反映しながら、都市の景観を守り、住民自らが活発なまちづくりを展開しましょう。

(8) 地球にやさしい都市環境を未来へ引き継ごう

地球環境に配慮した質の高い都市環境を創造し、未来へ引き継いでいくためには、一人ひとりが環境問題を考え、行動するとともに、様々な主体が協働して取り組むことが重要です。

- 廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用をすすめ、持続可能な循環型社会を目指しましょう。
- ヒートアイランド現象や地球温暖化などの環境問題に対して、省エネルギー行動や、環境負荷の小さい新エネルギーの普及に向けた技術の開発と利用をすすめましょう。
- 海や川、緑地や公園などの水と緑に加え、多様な生物が生息できる豊かな自然環境が身近にある、潤いのあるまちを目指しましょう。
- 農地を、農業生産の場として認識し、環境や防災、景観の保全、学習の場などに多面的に活用しましょう。

(9) 住み続けたいと感じられる魅力をつくろう

横浜に住むことに魅力を感じるためには、それぞれのライフステージのなかで、住み続けたいと感じられる生活満足度の高いまちを実現していく必要があります。特に、若者に対する魅力づくりは、都市の活力を維持していくうえでも重要です。

- 新たに横浜に住む人々も温かく受け入れられ、地域の一員として活躍できるまちを目指しましょう。
- 就職や就学などで生活環境が変化しても、自己実現を図ることができるなど充実した生活をおくりながら住み続けることができるまちを目指しましょう。
- 多様な仕事を選択できる就業環境や、それぞれのライフスタイルに応じた住環境と楽しみがある、若者や子育て世帯に魅力ある地域づくりをすすめてみましょう。
- 世代間交流や市民活動などにより地域の人々が支え合い、障害者や高齢者などが地域のなかでいきいきと暮らしていけるまちを目指しましょう。

(10) ゆとりをもって安心して暮らそう

障害者や高齢者はもとより、誰もが地域で安心して生活していくためには、将来にわたる安全と安心が確保され、ゆとりをもって心豊かに暮らせる社会を実現していくことが重要です。

- 個人の尊厳を尊重した福祉や医療の仕組みが整備され、バリアフリーがゆきとどいた、誰もが生活しやすいまちを目指しましょう。
- 救急医療や健康危機管理への備えを行うとともに、主体的な心と体の健康づくりを社会全体で支援し、健康で安心できる暮らしを目指しましょう。
- 災害発生時における避難や救援などの応急態勢や防犯に対する取り組みなど、安全と安心を支える充実した機能をもつ地域を目指しましょう。

4 実現のための基本姿勢

人口減少社会における、少子高齢化や社会経済のグローバル化などの進行は、新たな行政需要を生み、経営資源の制約を招きます。

社会経済情勢の変化に柔軟に対応しながら、都市像を実現していくためには、限られた経営資源を有効に活用し、効果的に取り組まなければなりません。

横浜を支える市民と行政がそれぞれの役割と責任を認識し、協力して都市の魅力や活力をつくるとともに、安心していきいきと暮らせる社会を実現します。

(1) 市民力の発揮 ～新しい公共の創造～

社会経済情勢の変化に伴い、市民や行政が単独で対応することが難しい新たな課題が増加し、解決に向けて柔軟かつ多様な取り組みを行う必要があります。

横浜には、多様で豊富な人材が集まり、活発な市民活動が展開されています。この豊かな市民力を最大限に発揮し、互いに助け合いながら自らが主体的に取り組むとともに、市民と行政が互いを理解し、尊重しながら協働して取り組みます。

ア 市民主体の取り組み

自らできることは自らが行うことを基本とし、世代間で互いに助け合い、連携しながら、市民が主体となって自主的に知恵と行動を結集し、取り組みます。

- 地域や社会活動に自発的に参画し、持てる力を発揮します。
- 自治会・町内会や市民公益活動団体などが、それぞれの特徴を活かし、互いに補いながら地域課題を解決できるコミュニティを形成します。
- 企業の社会的責任に基づく地域活動を尊重し、社会に貢献する文化を育みます。

イ 協働による取り組み

市民と行政が互いに特性を活かし、地域課題や社会的な課題に協働して取り組み、多様なニーズへきめ細かく対応することで、市民生活の質の向上を目指します。

- 市民と行政は対等の立場に立ち、活動目的や課題などの情報を共有し、相互理解を深めます。
- 地域の特性に応じて、市民や企業、行政などの地域を支える様々な主体が議論し、合意を形成しながら課題に対応します。
- 社会の変化やニーズに応じて、協働にふさわしい領域を柔軟にとらえて取り組みます。

(2) 行政の役割 ～自律と分権の地方自治を目指して～

地方分権の流れのなかで、特色ある「横浜らしさ」を発信し、新たな魅力と活力を創造するためには、市民との協働による「自治」と「経営」をすすめるとともに、行財政改革に取り組み、持続可能な行財政運営を行い、市民満足度の高い自主的・自律的な大都市運営を目指します。

- 市民が自発的に地域や社会活動に参加できるよう、情報提供をすすめるとともに、市民の活動を支援する仕組みを整えます。
- 地域の身近な課題に迅速かつ的確に対応できるよう、地域コミュニティを支援する仕組みや体制を整えます。
- 他の自治体と連携し、防災や環境問題などの市域を越えた広域的な課題に対応します。
- 地域のニーズを客観的かつ的確に把握・分析し、自律的な政策形成能力を高めます。

資料編

	ページ
資料 1 横浜市の将来人口推計について	資料編－ 1
資料 2 長期ビジョンの策定プロセス	資料編－ 3

横浜市の将来人口推計について

全市及び区別の人口推計を実施しました。

※ この推計値は、今後の政策立案に活用するために、過去の人口動向などを踏まえて推計した作業値であり、今後の政策展開などにより変動することがあります。

1 推計期間

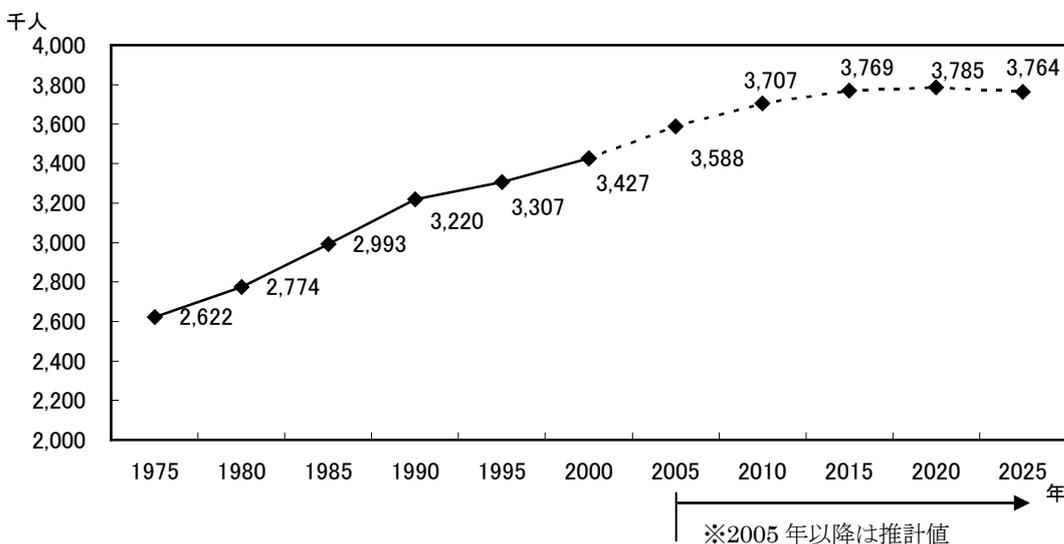
2000年の国勢調査による人口を基準人口とし、2025年までの推計を行いました。

2 推計方法

コーホート要因法

・コーホートとは同年又は同期間に出生した集団のことを指し（本推計では年齢5歳階級別）、コーホート要因法とは、その集団ごとの時間変化（出生、死亡、社会移動）をもとに人口の変化をとらえる方法です。

3 横浜市における人口の推移と将来推計（中位推計）



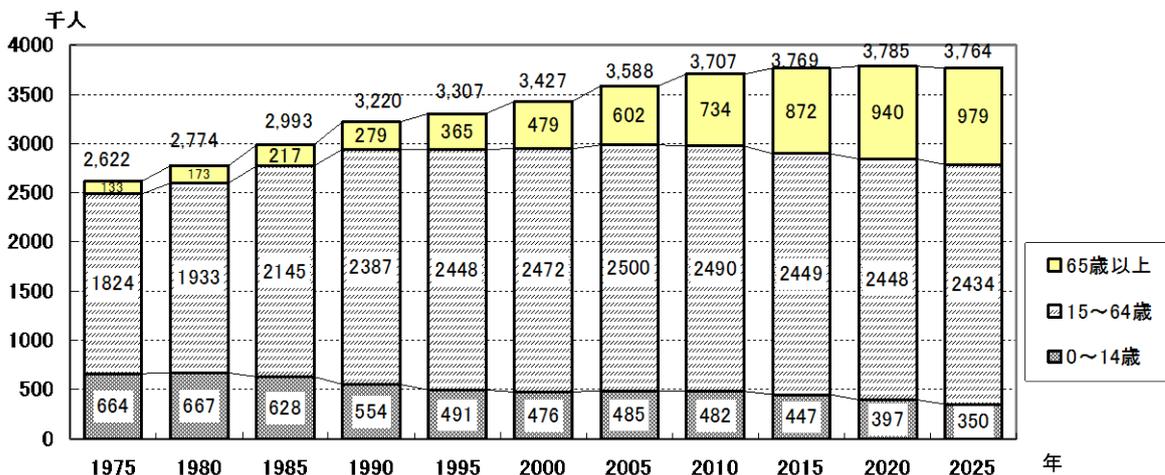
高・中・低位推計結果の比較（2000～2025年）

（千人）

	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2050年(※)
高位推計	3,427	3,594	3,729	3,811	3,849	3,852	3,600
中位推計	3,427	3,588	3,707	3,769	3,785	3,764	3,320
低位推計	3,427	3,581	3,684	3,725	3,720	3,677	3,097

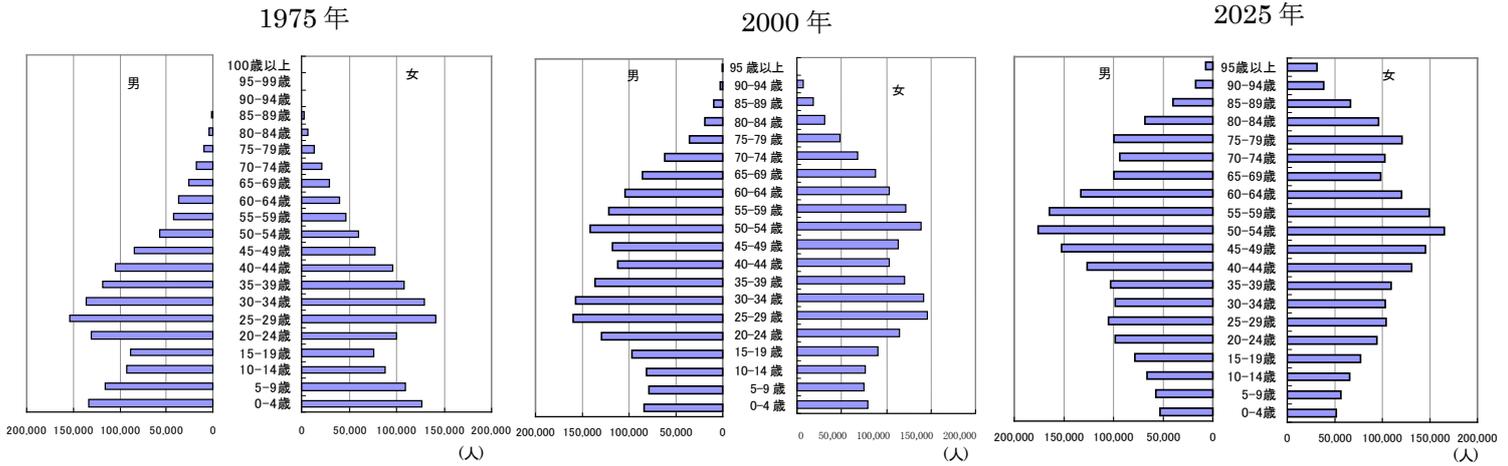
※2050年は参考値

4 横浜市における年齢3区分別人口の推移（中位推計）



※2005年以降は推計値

5 人口ピラミッドの推移（中位推計）



6 区別推計（中位推計）

(千人)

	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2000年を100とした場合の2025年の指数
横浜市	3,427	3,588	3,707	3,769	3,785	3,764	110
鶴見区	254	264	272	276	278	278	109
神奈川区	211	225	237	244	249	252	120
西区	78	86	96	100	101	100	128
中区	125	140	150	157	160	160	128
南区	195	201	207	209	209	205	105
港南区	223	223	223	221	218	213	96
保土ヶ谷区	202	206	209	210	208	205	102
旭区	253	254	252	248	245	241	95
磯子区	165	163	163	162	160	157	95
金沢区	205	209	210	210	208	204	100
港北区	294	310	320	324	324	323	110
緑区	158	172	183	192	198	202	128
青葉区	270	293	309	321	329	332	123
都筑区	155	180	200	214	221	224	144
戸塚区	251	259	261	260	257	252	100
栄区	118	124	126	127	126	123	104
泉区	147	153	157	160	162	162	110
瀬谷区	122	127	131	134	133	131	108

※太字は2000年から2025年までにおける5か年ごとの推計値の最大値です。

長期ビジョンの策定プロセス

- 平成 17 年 2 月 17 日 「長期ビジョン策定の考え方」公表
- 6 月 21 日 横浜国際港都建設審議会に「長期ビジョンの策定について」諮問
- 7 月 24 日 「横浜の未来を考える」シンポジウム開催
- 7 月 31 日 キックオフ！市民提案
「横浜発！市民が提案する新未来構想プロジェクト」として、7つの分野で市民グループが議論を開始
- 8 月 5 日 「横浜会議長期ビジョン研究会」開催
「政策の創造と協働のための横浜会議」において長期ビジョン研究会を開催し、議論を開始
- 7 月～9 月 児童・生徒作品コンテスト
「私の考える未来の横浜」をテーマに、小学生(絵画)・中学生(スローガン)・高校生(論文)の作品を募集
- 11 月 3 日 「市民提案発表会&児童・生徒作品コンテスト表彰式」開催
「横浜発！市民が提案する新未来構想プロジェクト」及び「横浜会議長期ビジョン研究会」の市民グループが議論の結果を発表。また、児童・生徒作品コンテストの優秀作品を表彰
- 10 月～11 月 「長期ビジョン中間とりまとめ」への意見募集
- 12 月 6 日 横浜国際港都建設審議会から「長期ビジョンの策定について」答申
- 平成 18 年 1 月 6 日 長期ビジョン[素案]公表

今後の予定

- 1 月 16 日
～2 月 28 日 パブリックコメント
- 4 月～5 月頃 長期ビジョン[原案]公表
- 5 月～6 月頃 市会の議決を経て、長期ビジョン確定

<パブリックコメントのお知らせ>

- ◆実施期間 平成18年1月16日(月)から2月28日(火)まで
- ◆意見募集 長期ビジョン[素案]に対するご意見を、はがき、ファックス、Eメール等でお寄せください。

※ 長期ビジョン[素案]の概要を掲載したリーフレットを、1月下旬から市内全世帯に配布します。リーフレット添付のはがき(切手不要)をご利用ください。

◆意見のあて先

横浜市都市経営局政策課 長期ビジョン担当

〒231-0017 横浜市中区港町1-1

電話 045-671-2010 FAX 045-663-4613

E-mail ts-vision@city.yokohama.jp



横濱開港150周年



横浜市 都市経営局 政策課
平成18年1月発行
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
電話 045(671)2010
FAX 045(663)4613
横浜市広報印刷物登録 第170561号
類別・分別 B-BC060



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用